

## インターバンクの声（2017年1月6日）

米金利の低下が著しいとは言え、新年まだ3営業日しか経っていない間にドル/円が3円以上、ユーロ/ドルも300ポイント近く変動したのは想定外と感じた人も多いはずだ。そもそも昨年 of 年末が迫っていた時期、米10年国債利回りが2.6%を越える高水準まで上昇したことが異常だったとも言えるが、そこから半月余りで0.3%も低下した足元の水準が適正なのかどうか確信が持てない人も多そうだ。

中国人民元が1ドル=7人民元を越えて元安に向かうことを見据えて元売りのポジションを積み上げていた人達が、前日より大幅な元高に設定された人民元の対ドル基準値に元反発への懸念を抱き、人民元の売りポジションを手仕舞い始めたことも円買い・ドル売りに拍車をかけた。

ロンドン市場でいったん米金利が戻り始めたため、ドル/円は116円台後半までドルが反発したが、ADP雇用統計が市場予想より悪化し、週末の米雇用統計結果に対する不安が高まった上に米金利が再度低下し始めたことが重なり、この日2度目の115円台までドル売りが進んだ。

昨年11月に始まったドル/円の上昇過程では114円台の滞空時間がほとんどなく、今晚の米雇用統計の結果次第では、あっさり113円台に向かうかも知れない。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。